**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：私から始まる平和統一　「韓国語と私」**

**お名前：　　平井　冨美子**

(下記より本文をご記入ください)

「私から始まる平和統一
　　　　韓国語と私」
　　　　　　　平井冨美子

　私と平和統一聯合とは、4年前のある集会の時に机の上に置かれていた「平統解放」の機関誌との出会いから始まる。
　私の主人は韓国人である。私と結婚するために日本に来てくれた。日本での生活ではあるが、相手の国の文化や言葉は生活の中で自然と必要になって来た。実際に韓国で生活したことのない私は、韓国語が言葉に出ない、話すことが出来ないことが1番の心の壁となっていた。
　8年前、韓国の文化や歴史、韓国人と日本人の見方、考え方、生活習慣の違いなどの講話を聞いたことがあったがそのような事を普段の会話の中で話題に出来る親しい友人はいなかった。私にとって、深い内容はわからなかったが、韓国の文化や歴史など様々な内容が豊富で、しかも南北統一という目指すものが明確な機関誌「平統解放」は、とても画期的で心動かされるものがあった。
　この頃から私の職場の病院では外国の患者さんが増えて来た。ある日、韓国の患者さんが来られた。英語の出来る方だったので、通訳を通して検査の説明がされていた。待ち時間に私は韓国語は少しだけだけわかる事と、「ここに座って下さい」と韓国語と見ぶり手ぶりで伝えた。最初は、少し緊張していた様子だったが徐々に表情が和らぎ、患者さんから笑顔が見られ、「ありがとう」という言葉が聞かれた。この時思ったこと、私がもし韓国語を話すことが出来るようになれば、患者さんの心身共の苦痛が少しでも和らげられるのではないか。
　今まで何度もテレビやラジオの講座などで韓国語の勉強に挑戦してきた。その度にテンポの速さについていくことが出来ず、結局自分のペースで独学でやっていく道しかないと思っていた。5年前に韓国の愛唱歌を5曲覚えたいと思い、1曲だけ友人と2人で練習して歌ったことがあった。その後コロナ禍ということもあって一緒に歌う機会もなくなり、いつしか歌うことも忘れていた。
　家庭では、主人は韓国語で話しても誰もわからないため、ずっと日本語で話していた。ところどころで韓国語混じりの言葉を話す主人は、どのようにして日本語を覚えたのだろうか。
　テレビのコマーシャルの「サラリとした梅酒」と口ずさんでいたのが日本に来て初めて覚えた歌だったと記憶している。日本語を学べるセミナーに行くこともなく、ずっとテレビのニュースや映画を見て過ごしていた。日本人の友人が出来た時、言葉も通じないのに一緒にいるだけで主人は楽しそうだった。きっと何か言葉ではない心が通じる世界があったのではないかと今思う。子どもが生まれて「パパ」と日本語を話し始めた時、「子どもは言葉を覚えるのが早い、パパは追い越されてしまう」と嬉しい表情の中にも苦笑いの主人だった。
今でも流暢な日本語とは言えないが主人が言葉を発すると、私と娘達は、瞬間的に耳を傾けて、こういう事を言っているんだよねと確認をする。
　そのような事を繰り返しているうちに、私はこのままではいつまで経っても韓国語を覚えることも出来ず、韓国の人を心から愛することが出来ないと思うようになっていた。
　そんなある日、主人が「おにぎり作ってもらえますか」とやさしい言葉をかけて来た。笑顔で「ありがとう」という言葉を聞いたその瞬間、普段主人に何かしてもらっていても仕事を理由にして当たり前のように思い、感謝の気持ちを忘れてことに気づいた。同時に娘から「ママ、これ食べてもいいよ」と声をかけられた時、娘の本当の気持ちをわかってあげていなかったのは私の方だったと、今まで張りつめていた心の何かが解けて来るように感じて涙があふれ出た。
　そんな時、「韓国語で話そう」という講座に誘いがあった時、もうこれにかけるしかない、最後の砦だと思い、思い切って参加してみることにした。たとえ韓国語で話すことは出来なくても歌でもいいということで、仕事帰りに韓国語の音楽を聞いて、朝見つけたカナつきの歌詞を見ながら練習して参加した。それを毎週続けて、時には録音して歌を送ることもあったが、3ヶ月が経った頃には、以前夢見ていた5曲を越えて12曲歌詞を見ながらではあるが歌えるようになっていた。そしてそれぞれ場所も時も異なるが、3人の友人と一緒に歌うことが出来た。どの歌も心の奥深いところまで入り、今を生きる自分にとって未来に希望を持てる思いになる歌だった。
　以前周囲の人からは「家に韓国語の先生がいていいね」と言われても、なかなかそうは思えなかった。韓国語は難しいと思っていたからだ。ところが歌うようになってから、言葉をそのまま何度も繰り返し覚えてしまえばいい、忘れたらまた思い出せばいい、わからないことは主人に聞けばいいのだと素直に思えるようになった。言葉は思いを、心を伝えるものだとこの時思った。主人の健康のために一緒に散歩に出かけたり、韓国のニュースやドラマを見る機会も少しづつ増えて来た。主人に韓国語のこと、よく見ているのど自慢やドラマの事を聞くと嬉しい様子でよく笑うようになって来た。
　そして、在日同胞の方との「21世紀の朝鮮通信使」という内容の勉強会への参加がきっかけで、今まで自分とはかけ離れていると思っていた韓国の人の心の温かさに触れることが出来た。私の職場の病院でも患者さんの中に在日の方がいて、通院の度にひと言でも話す事で笑顔が見られ、心の距離が以前より少し近くなって来たように思う。
　また、韓半島の南北の現状や日本での在日同胞の歴史などにも少しずつではあるが関心が持てるようになって来た。たとえ小さくてもこのような一歩が在日和合、南北統一に繋がって行く道しるべとなれると信じて、あきらめずにこれからもコツコツと努力し続けていきたい。